

# 住民参加型の地域福祉サービスに関する研究

経済学部  
経済学科  
教授

萱沼 美香



## 研究シーズの紹介

本研究は、地域包括ケアシステムにおける住民主体による支援サービスの課題と可能性を探索し、住民参加型の地域福祉社会の構築のあり方について、調査研究を通して探求し、具体策を提言することを目的としています。

新総合事業における住民主体によるB型支援の普及が進まない現状がある。しかし、当事業の高齢者及び地域における効果的な介護予防と生活支援の担い手確保といった点か

ら、今後の超高齢社会において重要な役割を果たすことから、地域に根差したサービス供給がなされる体制を整えることは必須である。

そこで、本研究では地域の限りある資源を有効に活用するためのB型支援を含めた総合的な地域福祉施策の考察を行っている。



### 高齢者の生きがいと就労の場の創出

- 地域ニーズに応じた新たな働き方の開発や提供を行います。
- 地域に住まう高齢者の余暇時間を利用し、地域貢献につながる就労を行うことが可能です。



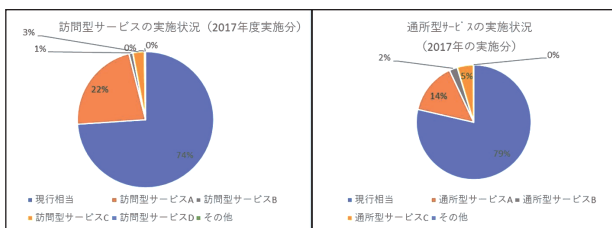
### 地域の担い手不足を解消

- サービスを供給する住民主体の新たな組織を創出します。
- 地域内の困りごとを共有化し、解決に向け取り組むことができます。

〈地域の課題〉 高齢者の増加と担い手不足により、移動、買い物、居場所、担い手、見守りなどへの対応。

〈現状〉 総合事業B型及びD型の実施状況をみると住民主体による支援はわずかにとどまっています（図表1）

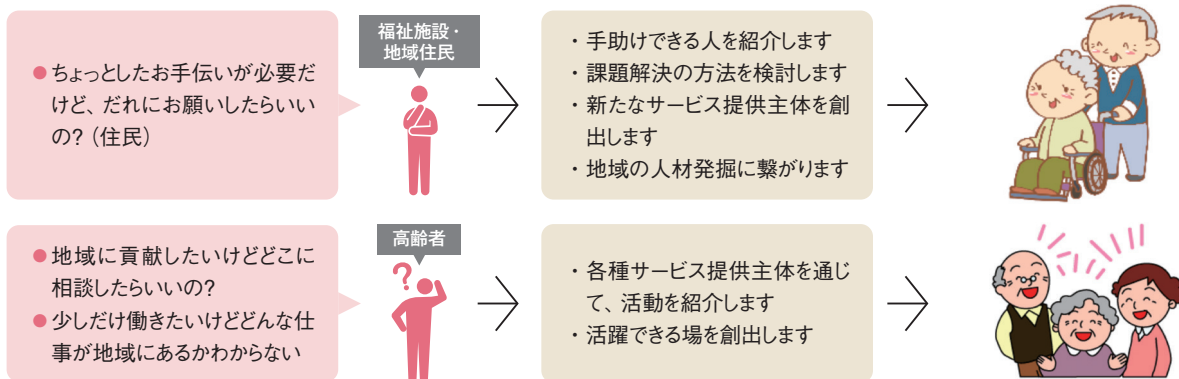
図表 1. 介護予防・生活支援サービス事業の実施状況（2017年度実施分）



### 〈普及に向けて〉

- 行政・社協等による組織形成支援のさらなる充実・普及が必要です。
- 自治体独自事業や一般介護予防事業による介護支援ボランティアポイントの活用は地域資源の乏しい地域においては特に有効と考えられます。

## 期待される活用シーン



### その他の研究テーマ

地方コミュニティにおける多様な社会参加に関する研究  
介護支援ボランティア制度による生活支援サービス供給に関する研究